序

センターが発足して４年目，今年も新規・継続を合わせ種々の取組を行った。実習教育の企画・実行の役割を担うフィールドサイエンス推進部では，講座教員の協力のもと基礎農場実習を含む８科目の実習を行った。ところで，中四国国公立大学（農学系）では昨年度から文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム「大学間連携によるフィールド教育体系の構築」に取り組んでいるが，これは将来の実習教育のあり方を示唆するものであるかも知れない。地域社会への窓口の役割を担う企画連携部では，シンポジウム「岡山県における農業分野での地域連携」，地域開放特別事業「親子で野菜づくり」等を実施した。ご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げる。

法人化に伴い，この他にもいくつかの事業に取り組んだ。その一つは，講習会等を通した技術職員の資質向上である。法人化以降，技術職員はできるだけ講習会や研修会に参加し，資格取得やスキルアップを図っている。今年度は車両系建設機械運転者講習会，クレーン運転業務特別教育，家畜人工授精研修会，アーク溶接講習会，玉掛け技能講習会等に参加し，技術向上に努めた。また，３月には薬品販売会社から講師を招き，「農薬使用の規制に関する最近の動向」と題して講演会を開催した。これは，平成18年５月から「ポジティブリスト」といって農薬使用の規制が厳しくなることから，農薬使用に際して改めて注意を喚起するためである。

二つ目は，ブランド農産物の開発・育成である。学長裁量経費「岡山大学ブランドの農産物の開発・育成と販売体制の構築」が採択されたのを機に，センター農産物のブランド化に着手した。さし当たり，①八浜農場の米（アケボノ）100%を用いた日本酒，②岡山農場のイチゴ，および③津高牧場の黒毛和牛のブランド化を計画している。和牛については，その育種価が岡山県で最高位にランクされ，受精卵採取用優秀雌牛として岡山県と貸借契約を締結したのに伴い，育種価の高い系統の和牛を増やして農家に還元し，本県畜産業の発展に寄与しようとするものである。

三つ目は，センターの販売所以外でも農産物を販売し始めたことである。センターでは，米を中心に数年前から農産物を岡山大学生協に販売してきた。そのような中，附属病院内の（財）積善会の売店で青果物を販売したいとの要望があり，８月から販売するようになった。さらに，岡山県内で大規模にデパートやショッピングセンターを展開している天満屋（株）から地産地消の推進に協力願いたいとの話しがあり，11月から岡山店の地下食品売場にセンターの販売コーナーを設けることになった。このような取組が，本学の宣伝になるだけでなく，技術職員の技能向上につながり，またインターンシップ実習に発展することを期待している。

本年度は人の移動が多い年であった。新進気鋭のお二人がセンター専任の教授になられたいっぽう，お一人の先生が定年を迎えられ，またお一人の技術職員が他大学に移られた。この他，２名の事務職員が他部局に移られ，また非常勤職員３名が退職された。皆様のご貢献に感謝するとともに，今後のご健勝・ご発展をお祈りする次第である。

平成18年12月

山陽圏フィールド科学センター
センター長　久保田　尚浩